

2015（平成 27）年度

日本医学会年次報告

2016年2月17日

日本医学会

目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 「第29回日本医学会総会2015 関西」の終了報告	1
2) 「第30回日本医学会総会2019 中部」の準備	2
2. 日本医学会幹事会	4
3. 日本医学会定例評議員会	5
4. 日本医学会シンポジウム	5
1) 日本医学会シンポジウム	5
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	6
3) 日本医学会シンポジウム記録 (DVD)	6
4) 日本医学会シンポジウムの要旨	6
5. 日本医学会公開フォーラム	7
1) 日本医学会公開フォーラム	7
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	7
3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)	8
6. 日本医学会医学用語管理委員会	8
7. 日本医学会分科会用語委員会	9
8. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	9
9. 日本医学会加盟検討委員会	11
10. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	12
11. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会	12
12. 日本医学会利益相反委員会	13
13. 日本医学雑誌編集者組織委員会	13
14. 研究倫理教育研修会	14
15. 移植関係学会合同委員会	15
16. 日本医学会だより	15
17. 情報発信	15
18. 会議等の開催数	16
19. その他	17
綴じ込み	
日本医学会だより No.53	18
日本医学会だより No.54	20
緊急声明	22
新しい外科的治療の臨床応用には十分な体制の整備を	25
HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き	27

1. 日本医学会総会

1) 「第29回日本医学会総会2015 関西」の終了報告

第29回日本医学会総会は、井村裕夫会頭、本庶 佑副会頭、山岸久一副会頭、平野俊夫副会頭、高井義美副会頭、森 洋一副会頭、三嶋理晃準備委員長の下、「医学と医療の革新を目指して～健康社会を共に生きるきずなの構築～」とメインテーマを定め、2015年3月から4月にかけて、京都を中心に初めてオール関西で開催した。すなわち学術講演、学術展示、医学史展は京都で、一般公開展示は神戸で、イベントとして産官学の新たな連携を目指した「医と健康フォーラム2015 関西」を大阪で開催し、いずれの会場でも多くの方々の参加を得た。また「きずなの構築」とうたったように、これからの医療は提供する側のみでなく、受ける側との連携が必要であるという認識に立ち、「医総会 WEEK」と銘打って9日間にわたる講演会シリーズを一般市民向けにも開催し、これら全企画をあわせ計約40万人が参加する総会となった。

学術講演は、皇太子殿下のご臨席を賜った開会式に始まり、テーマを「医学」「医療」「きずな」の三つに分け、個々の学会では議論されることの少ない専門分野横断的な医学・医療の重要課題を「20の柱」として幅広く取り上げ、多方面から議論した。また、開かれた総会をめざして、18の企画を一般市民にも公開し、関西地区の16大学から集まった医学、薬学、看護学の学生たちが「医療チーム・学生フォーラム」として3年間にわたる勉強の成果を発表し、さらには幅広く産業界からも参画したシンポジウムを実施した。

学術展示は、京都の2会場で実施し、また、一般公開展示は、「未来医 XPO'15～あなたの暮らしと医の博覧会～」をテーマとして、子供たちの春休み期間に合わせて神戸で開催し、初めて政府からの展示発表による参加も得て、医療関係者、子供から大人までの一般市民、産業界、政府が一堂に会する場となった。

医学史展は、「医は意なり－いのちを守る知のあゆみ－」をテーマとして、京都大学総合博物館において開催し、展示期間中の週末には市民参加セミナー「医学史サロン」として一般市民や学生向けに医学史にまつわる種々のテーマに関する講演

会を実施し、さらに京都国際マンガミュージアムにて共催展示「医師たちのブラック・ジャック展」も開催した。

ソーシャルイベントは、15種を実施し、一部の種目は一般市民にも公開して約1,500名以上の参加を得た。

日本医師会、全国都道府県の医師会、政府・地方自治体、産業界、市民の皆さま、そして分科会の先生方をはじめ関係する全ての方々の多大なるご尽力によって、このような従来にない新たな企画を多く盛り込んだ総会を開催にまでたどり着くことができ、成功裏に終えることができた。

2) 「第30回日本医学会総会 2019 中部」の準備

第30回日本医学会総会（2019年）は、中部地区で開催することとし、その準備状況としては、2015年12月現在、下記の諸点が決定している。

①役員

会 頭	齋藤 英彦	名古屋大学名誉教授
副 会 頭	松尾 清一	名古屋大学総長
副 会 頭	柵木 充明	愛知県医師会長
副 会 頭	郡 健二郎	名古屋市立大学長
副 会 頭	森脇 久隆	岐阜大学長
副 会 頭	駒田 美弘	三重大学長
副 会 頭	中村 達	浜松医科大学長
副 会 頭	星長 清隆	藤田保健衛生大学長
副 会 頭	佐藤 啓二	愛知医科大学長
準備委員長	高橋 雅英	名古屋大学教授・医学系研究科長
顧 問	横倉 義武	日本医師会長
顧 問	井関 尚一	金沢大学医薬保健学域長
顧 問	眞弓 光文	福井大学長
顧 問	遠藤 俊郎	富山大学長

顧問	池田 修一	信州大学医学部長
顧問	三宅 養三	愛知医科大学理事長
顧問	勝田 省吾	金沢医科大学長
顧問	小林 博	岐阜県医師会長
顧問	青木 重孝	三重県医師会長
顧問	篠原 彰	静岡県医師会長
顧問	近藤 邦夫	石川県医師会長
顧問	大中 正光	福井県医師会長
顧問	馬瀬 大助	富山県医師会長
顧問	関 隆教	長野県医師会長
顧問	杉田 洋一	名古屋市医師会長
顧問	堀田 知光	国立がん研究センター理事長
顧問	鳥羽 研二	国立長寿医療研究センター理事長

総務委員長	長谷川好規	名古屋大学教授
プログラム委員長	門松 健治	名古屋大学教授
展示委員長	若林 俊彦	名古屋大学教授
財務委員長	石黒 直樹	名古屋大学教授・病院長
広報委員長	浅井 清文	名古屋市立大学教授・医学研究科長
登録委員長	湯澤由紀夫	藤田保健衛生大学教授・病院長
記録委員長	大野 欽司	名古屋大学教授
式典委員長	佐藤 啓二	愛知医科大学長
幹事長	村田 誠	名古屋大学講師

②会期

学術集会：2019（平成 31）年 4 月 27 日（土）～ 4 月 29 日（月）（予定）

学術展示：2019（平成 31）年 4 月 26 日（金）～ 4 月 29 日（月）（予定）

公開展示：2019（平成 31）年 3 月 30 日（土）～ 4 月 7 日（日）（予定）

医学史展：2019（平成 31）年 3 月 2 日（土）～ 4 月 25 日（木）（予定）

③会場

学術集会：名古屋国際会議場，愛知県産業労働センター

学術展示：名古屋国際会議場，愛知県産業労働センター

公開展示：ポートメッセなごや

医学史展：名古屋大学博物館

④主務機関

名古屋大学医学部，名古屋市立大学医学部，岐阜大学医学部，三重大学医学部，
浜松医科大学，藤田保健衛生大学医学部，愛知医科大学医学部，金沢大学医学類，
福井大学医学部，富山大学医学部，信州大学医学部，国立長寿医療研究センター，
愛知県医師会，岐阜県医師会，三重県医師会，静岡県医師会，石川県医師会，福井
県医師会，富山県医師会，長野県医師会，名古屋市医師会

⑤メインテーマ

「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」(案)

⑥事務局

「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」事務局

組織委員会事務局長 青山 正晴

事務局アドバイザー 宇佐美克之

〒 466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 名古屋大学医系研究棟 3 号館内

Tel : 052-744-2515 (直通)

E-mail : isoukai-jim@med.nagoya-u.ac.jp

2. 日本医学会幹事会

第 12 回日本医学会幹事会を，平成 28 年 2 月 17 日（水）に開催。主な議題は，「平成 27 年度日本医学会年次報告」，「平成 28 年度日本医学会事業計画」，「日本医学会新規加盟学会」等である。

3. 日本医学会定例評議員会

第 83 回日本医学会定例評議員会を、平成 28 年 2 月 17 日（水）に開催。主な議題は、「平成 27 年度日本医学会年次報告」、「平成 28 年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

4. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり 2 回開催した。

・第 147 回日本医学会シンポジウム

テ ー マ：わが国の高齢者医療をめぐる諸問題

開 催 日：平成 27 年 6 月 4 日（木）

開催場所：日本医師会館

組織委員：大内 尉義（虎の門病院 病院長）

秋下 雅弘（東京大学大学院医学系研究科教授・加齢医学）

辻 哲夫（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）

参加者数：234 名

・第 148 回日本医学会シンポジウム

テ ー マ：新しいがん免疫療法

開 催 日：平成 27 年 12 月 24 日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：間野 博行（東京大学大学院医学系研究科教授・細胞情報学）

岩井 佳子（産業医科大学医学部教授・分子生物学）

上田 龍三（愛知医科大学教授・腫瘍免疫寄附講座）

参加者数：336 名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は間野博行（東京大学大学院医学系研究科教授・細胞情報学），坂元亨宇（慶應義塾大学教授・病理学），小室一成（東京大学医学部教授・循環器内科），吉野一郎（千葉大学大学院医学研究院教授 呼吸器病態外科学），武林 亨（慶應義塾大学医学部教授・衛生学・公衆衛生学）の5名で構成されており，シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委員について企画構成を行っている．今年度は次のとおり開催した．

・第23回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成27年5月13日）

第148回シンポジウムのテーマを決定した．

テ ー マ：新しいがん免疫療法

・第24回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成27年11月18日）

第149回シンポジウムのテーマを決定した．

テ ー マ「医学用語を考える－医療者・市民双方の視点から」

3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第147回日本医学会シンポジウム」，「第148回日本医学会シンポジウム」の全容を，DVDに制作し，関係各位に謹呈した．

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）．

4) 日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は，日本医師会雑誌に次のとおり掲載した．第147回日本医学会シンポジウム「わが国の高齢者医療をめぐる諸問題」：第144巻第7号（平成27年10月号），第148回シンポジウム「新しいがん免疫療法」：第144巻第12号（平成28年3月号予定）

5. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

- ・第18回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：前立腺がん

開 催 日：平成27年7月4日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：野々村祝夫（大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（泌尿器科）教授）

参加者数：218名

- ・第19回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：胃がん－ここまで進んだ診断と治療－

開 催 日：平成27年12月26日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：今野 弘之（浜松医科大学副学長・病院長）

参加者数：201名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，南 砂，小森 貴）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

- ・第20回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成27年5月13日）

企画委員会で第19回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：胃がん－ここまで進んだ診断と治療－

総 合 司 会：今野 弘之（浜松医科大学副学長・病院長）

- ・第21回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成27年11月18日）

企画委員会で第20回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ　　マ：肝炎

組織委員長：小池　和彦（東京大学大学院医学系研究科器消化器内科学教授）

3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「日本医学会特別公開フォーラム～第29回日本医学会総会2015関西プレイベント～いのちを考える」, 「第18回日本医学会公開フォーラム：前立腺がん」のフォーラムの全容を, DVDに制作し, 関係各位に謹呈した。

また, DVDの内容は, 日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は, 委員長: 脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長）, 副委員長: 大江和彦（東京大学大学院教授）, 小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授）, 河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授）, 坂井建雄（順天堂大学大学院教授）, 清水英佑（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長）, 田中牧郎（明治大学国際日本学部教授）, 辻　省次（東京大学大学院教授）, 森内浩幸（長崎大学大学院教授）, 山口　巖（茨城県総合健診協会顧問）, 山口俊晴（癌研有明病院病院長）の11名により構成されている。

本年度は以下のように3回開催した。第12回医学用語管理委員会（平成27年6月9日開催）, 第13回医学用語管理委員会（平成27年10月28日開催）, 第14回医学用語管理委員会（平成27年12月1日開催）。

7. 日本医学会分科会用語委員会

平成 27 年度日本医学会分科会用語委員会を平成 27 年 12 月 1 日に開催した。主な議題は、1. 分科会における医学用語集の作成あるいは改定に際しての提言、2. 日本医学会医学用語辞典 用語比較の書式 & 更新内容、3. 指定難病名に対する日本医学会医学用語管理委員会の対応、4. 医療現場で繁用される用語に関する問題提起、5. 標準病名マスターとその周辺の話、6. 質疑応答等である。

8. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成 27 年 9 月 2 日（水）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、小林廉毅（東京大学大学院医学系研究科教授）、横山和仁（順天堂大学医学部教授）、滝川 一（帝京大学医学部主任教授）、植木浩二郎（東京大学大学院医学系研究科特任教授）、高橋 浩（日本医科大学大学院教授）、の 5 氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 4 名、医学研究奨励賞 15 名が選考され、11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第 144 巻第 9 号）に掲載した。

[平成 27 年度日本医師会医学賞]

・慢性炎症・癌化に関わる新しいユビキチン修飾系の発見

岩井 一宏／京大・細胞機能制御学

・生活習慣病のリスク要因解明と予防対策の評価に関する公衆衛生学的研究

磯 博康／阪大・公衆衛生学

・高血圧の発症の分子メカニズム

藤田 敏郎／東大先端科学技術研究センター

- ・がん外科手術手技に関する臨床研究法の確立とそれを用いた胃がんリンパ節郭清の標準化

笹子 三津留／兵庫医大・外科学

[平成 27 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・分子イメージングによるがんのコンパニオン診断とイメージングに基づいた光線治療法の開発

光永 真人／慈恵医大・内科学

- ・褐色・白色脂肪細胞における転写・エピゲノム制御と肥満症における意義

脇 裕典／東大・脂肪細胞機能制御学

- ・ストーマ患者に対する新たな同種複合組織移植研究

荒木 淳／東大・形成外科・美容外科学

- ・子宮内膜由来の着床障害による不妊症の関連遺伝子の解析

黒田 恵司／順天堂大・産科婦人科学

- ・医師の健康支援に関する産業保健的介入のあり方の検討

和田 耕治／国立国際医療研究センター

- ・心不全特異的な BNP 転写誘導メカニズムの解明による新たな経口心不全治療薬開発の試み

塚本 蔵／阪大・医化学

- ・肺癌化学療法に伴う免疫耐性機構の動的変化を克服する化学免疫療法の基盤開発とその制御

大植 祥弘／川崎医大・呼吸器内科学

- ・消化器癌における常在微生物群ゲノムの解析と分子異常・免疫応答・環境因子との関連

能正 勝彦／札幌医大・消化器・免疫・リウマチ内科学

- ・炎症性腸疾患における腸内細菌叢パターン解析による新たな診断分類，治療選択手法の確立

高山 哲朗／東海大・内科学

- ・臓器間神経ネットワークによる体重調節機構の解明に基づく新規肥満治療薬の開発
山田 哲也／東北大・糖尿病代謝内科学
- ・CTC チップを用いた循環腫瘍細胞捕捉と低侵襲的な新規腫瘍確定診断法の確立
横堀 武彦／群馬大・病態腫瘍薬理学
- ・食道癌における“がん代謝”に関わる epigenomic biomarker の網羅的解析
馬場 祥史／熊本大・消化器外科学
- ・聴覚機能の成立に関わるアクチン制御機構の解明
坂口 博史／京府医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
- ・メタボリックシンドロームにおける尿路結石促進機序の解明と分子標的治療への応用
岡田 淳志／名市大・腎・泌尿器科学
- ・次世代型偏光感受性光干渉断層計による術後瘢痕化評価
福田 慎一／筑波大・眼科学

9. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会の委員は、委員長：久道 茂（宮城県対がん協会会長），委員：佐谷秀行（慶應義塾大学医学部教授），深山正久（東京大学大学院医学系研究科教授），松島綱治（東京大学大学院医学系研究科教授），今中雄一（京都大学大学院医学研究科教授），中村裕之（金沢大学医薬保健研究域医学系教授），川崎誠治（順天堂大学医学部主任教授），島田和幸（小山市民病院病院長），坂田隆造（神戸市立医療センター中央市民病院病院長），別役智子（慶應義塾大学医学部教授），田宮菜奈子（筑波大学医学医療系教授），天谷雅行（慶應義塾大学病院副病院長），辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科教授）の13名である。

平成27年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成27年11月13日に開催した。今年度の加盟申請の28学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協

議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成 23 年 7 月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

10. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成 23 年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部遺伝医学・予防医学教授）、委員：鎌谷直之（株式会社スタージェン情報解析研究所長）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院ブレストセンター診療科長）、宮地勇人（東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授）、五十嵐 隆（国際成育医療研究センター理事長・総長）、小西郁生（京都大学大学院産婦人科学教授）の 7 名で構成されている。

第 11 回委員会は、平成 27 年 7 月 17 日に開催した。主な議題は、1. 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度について、2. 平成 25 年度母体血を用いた出生前遺伝学的検査の実施報告、3. 厚生労働科学特別研究事業「遺伝情報・検査・医療の適正運用のための法制化に向けた遺伝医療政策研究」、4. その他である。

11. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成 25 年 3 月に発足し、主に施設の認定、登録を行っている。久具宏司（委員長：東京都立墨東病院産婦人科部長）、澤 倫太郎（日本医科大学女性生殖発達病態学講師）、榊原秀也（横浜市立大学附属総合医療センター婦人科部長・准教授）、川目 裕（東北メディカル・バンク機構教授）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝学教授）、丸山英二（神戸大学大学院法学研究科教授）の 6 名により構成されている。

12. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）、委員：土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）、萩原誠久（東京女子医科大学大学院医学研究科主任教授）、朴 成和（国立がん研究センター中央病院消化内科長）、前川 平（京都大学医学部附属病院輸血細胞治療部教授）、小笠原彩子（南北法律事務所弁護士）、加藤益弘（東京大学トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ（TR 機構）特任教授）の 7 名で構成。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との 3 委員会合同委員会を、平成 27 年 5 月 15 日に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②研究倫理教育研修会について等であり、その後、第 1 回研究倫理教育研修会を開催した。

第 12 回委員会は、平成 27 年 10 月 1 日に開催した。主な議題は、①第 11 回利益相反委員会ならびに 3 委員会合同委員会議事録、②日本医学会利益相反委員会活動経緯、③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告、④製薬協「医療用医薬品製品情報概要等に関する作成要領」、⑤今年度の課題：Clinical practice guideline と COI 管理、⑥日本医学会 医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン改定、⑦ COI 管理に関する各分科会へのアンケート調査（ガイドライン・指針等含む）、⑧第 2 回研究倫理教育研修会（3 委員会合同）開催等についてについて意見交換を行った。

第 13 回委員会は、平成 28 年 3 月 28 日に開催予定。

13. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 20 年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授）、委員：木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教

授), 北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐), 津谷喜一郎 (東京有明医療大学保健医療学部特任教授), 根岸正光 (国立情報学研究所名誉教授), 三沢一成 (特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事), 湯浅保仁 (東京医科歯科大学名誉教授), 吉岡俊正 (東京女子医科大学理事長・学長) の8名である。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会利益相反委員会との3委員会合同委員会を, 平成27年5月15日に開催した。主な議題は, ①各委員長からの挨拶と取り組み状況, ②研究倫理教育研修会について等であり, その後, 第1回研究倫理教育研修会を開催した。

第17回日本医学雑誌編集者組織委員会を, 平成27年10月26日に開催した。①「医学雑誌編集のガイドライン」について (発行報告, 各学会からのコメントへの回答・補足説明のWeb掲載), ②APAME 2015 (マニラ) (2015年8月開催), ③日本医学会利益相反委員会活動報告, ④第15回 アジア西太平洋地域倫理委員会フォーラム (FERCAP) 国際会議, ⑤第8回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム, ⑥第2回研究倫理教育研修会等について意見交換を行った。

14. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で, 研究倫理のあり方, 研究倫理問題の予防と発生時の対応について情報を共有し, 各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として, 日本医学会連合研究倫理委員会, 日本医学雑誌編集者組織委員会, 日本医学会利益相反委員会合同で, 第1回目となる研究倫理教育研修会を, 「医学研究倫理を考える」をテーマとして, 平成27年5月15日に開催した。詳細は, 日本医学会ホームページに掲載したので, 参照いただきたい。

シンポジウムは, 河上 裕 (日本医学会連合研究倫理委員会委員長), 北村 聖 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員長), 曾根三郎 (日本医学会利益相反委員会委員長) の座長の下, 下記のプログラムで開催された。

- ・医学研究と倫理／河上 裕 (慶應義塾大学医学研究科委員長)

- ・医学研究成果公表における著者四角と研究不正およびその防止／北村 聖（東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授）
- ・医学系研究に係る利益相反マネジメントの考え方とその実際／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の概要／福井次矢（聖路加国際大学理事長／聖路加国際病院院長）
- ・あらためて研究倫理とは何か～医の倫理との異同を考える／櫛島二郎（東京財団 研究員）

15. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。第33回委員会は持ち回り開催とし、肝臓移植実施施設の認定を行った。

16. 日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は、本年度、5月にNo.53を、10月にNo.54を発行した（綴じ込みの「日本医学会だより」を参照）。

17. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

平成 27 年 4 月 11 日、みやこめっせにて、日本内科学会、日本医師会と共に「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート 2015」について、記者会見を行った。

5 月 13 日、日本医師会館にて、日本医師会、全国医学部長病院長会議と合同記者会見を行い、三団体で「国家戦略特区による医学部新設」に反対する緊急声明を発表した（綴じ込み参照）。

7 月 29 日、日本医師会館にて、日本医師会並びに全国医学部長病院長会議と合同会見を行い、国家戦略特区での医学部新設問題について、改めて反対する考えを表明。

8 月 5 日、「新しい外科的治療の臨床応用に際しては十分な体制の整備を」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

8 月 19 日、日本医師会定例記者会見にて日本医師会と合同会見を行い、「HPV ワクチン接種後に生じた症状に関する診療の手引き」（綴じ込み参照）を作成したことを公表。8 月 25 日に本会ホームページに掲載した。

8 月 31 日、「2020 年オリンピック・パラリンピック成功に向けて、東京都受動喫煙防止条例制定の再要望書」を 24 学会禁煙推進学術ネットワーク、日本医師会と共に都知事に提出、記者会見を行った。

18. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11 回
日本医学会幹事会	1 回
日本医学会役員会・幹事会打ち合わせ会	1 回
日本医学会評議員会	1 回
日本医学会シンポジウム	2 回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	2 回
日本医学会公開フォーラム	2 回

日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会医学用語管理委員会	3回
日本医学会分科会用語委員会	1回
医学用語打ち合わせ会	2回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	1回
「母体血を用いた出生前遺伝子検査」の施設認定・登録部会	5回
日本医学会利益相反委員会	2回
日本医学会分科会利益相反会議	0回
日本医学雑誌編集者組織委員会	1回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）	0回
3委員会合同委員会	1回
3委員会委員長打合会	1回
研究倫理教育研修会	1回
移植関係学会合同委員会	1回
記者会見	6回

19. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成27年8月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「平成28年日本医学会分科会総会一覧」を平成27年12月に関係各方面に配付した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成27年度版－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

日本医学会だより

JAMS News

2015年5月 No.53
日本医学会

◆第82回日本医学会定例評議員会

平成27年2月18日に開催した。平成26年度年次報告、平成27年度事業計画の報告の他、第29回日本医学会総会2015関西の準備状況の説明があった。平成26年度新規加盟学会は、日本病態栄養学会の1学会が承認され、123学会となった。

この他、第30回日本医学会総会について、役員決定等の報告があった。会期は2019年(平成31年)4月12日(金)~14日(日)、会頭は齋藤英彦(日本医学会幹事/名古屋医療センター名誉院長)、副会頭は現在までに、柵木充明(愛知県医師会長)、松尾清一(次期名古屋大学総長)の2名が、準備委員長は高橋雅英(名古屋大学医学部長)の各氏が決定しており、副会頭は最終的に3~4名になる予定である。

また、日本医学会 日本医学雑誌編集者会議の「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン(案)」が諮られ、了承された。

◆第29回日本医学会総会2015関西

第29回日本医学会総会2015関西は、平成27年4月11日~13日、井村裕夫会頭の下、「健康社会のためのきずなの構築—医学と医療制度の未来を拓く」をテーマに、国立京都国際会館を中心に関西地区で開催された。一般公開展示30万人、学術講演3万人、医学史展、イベント等を含め延べ40万人の参加があった。

◆日本医学会加盟検討委員会

平成26年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、平成26年10月22日に開催した。加盟申請の22学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成27年1月14日の日本医学会協議会で高久会長に報告した。

◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の10の基本領域学会と2つのSubspecialty学会から構成されている。

運営委員会の組織としては、現在、「専門医制に関する委員会」、「がん領域に関する作業部会」、「『遺伝子・健康・社会』検討委員会」、その下部組織として「『母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査』施設認定・登録部会」の4つの委員会(含部会)がある。

◆日本医学会利益相反委員会

第10回利益相反委員会を、平成26年7月3日に開催した。主な議題は、①日本医学会利益相反委員会委員のCOI自己申告書案、②日本医学会利益相反会議の開催(アンケート調査、時期、テーマなど)、③日本医学会COIマネジメント研修セミナー/第一回研修セミナー報告(82学会95名出席、一般参加者113名)、第二回開催、④COI教育用スライドキットの作製、⑤COIマネジメントへの相談受け入れと指導、⑥医学系研究の倫理指針改定動向の情報提供、⑦日本製薬工業協会並びに全国医学部長病院長会議との連携等、⑧COI申告書の統一化

(例：ICMJE)、日本医学雑誌編集者組織委員会との連携、⑨日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等について意見交換を行った。

第11回利益相反委員会を、平成26年11月28日に開催した。主な議題は、①アンケート調査結果説明、②日本医学雑誌編集者組織委員会の活動報告等が行われた。同日午後、第5回日本医学会分科会利益相反会議を日本医師会館大講堂にて開催した。

また、平成27年3月に、「日本医学会 医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン 2015 (平成27)年3月一部改定」を公表した。

◆日本医学会医学用語管理委員会

平成26年12月19日(金)に平成26年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。主な議題は、①疾病、傷害及び死因分類の改正とWHOにおける国際統計分類の検討状況について、②日本医学会医学用語辞典改訂について、③「奇形」という医学用語を考える、④電子カルテ用標準病名マスターについての報告、⑤神経疾患における用語統一に向けての課題。

◆第18回日本医学会公開フォーラム

「前立腺がん」をテーマに、平成27年7月4日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する[組織委員長：野々村祝夫・大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(泌尿器科)教授]。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 序論：前立腺がんとは/野々村祝夫[大阪大学大学院医学系研究科教授・器官制御外科学(泌尿器科)]、2. PSA検診の意義/伊藤一人(群馬大学大学院医学系研究科准教授・泌尿器科学)、3. 早期がんの治療(手術療法)/原 勲(和歌山県立医科大学教授・泌尿器科)、4. 早期が

んの治療(非観血的治療)/佐藤威文(北里大学医学部教授・泌尿器科)、5. 前立腺がんの薬物療法/大家基嗣(慶應義塾大学医学部教授・泌尿器科学)

◆第147回日本医学会シンポジウム

今回のシンポジウムは「わが国の高齢者医療をめぐる諸問題」をテーマに、平成27年6月4日(木)13:00~17:00日本医師会館大講堂で開催予定。組織委員：大内尉義、秋下雅弘、辻 哲夫。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

◆医学賞・医学研究奨励賞

平成27年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日(金)~7月3日(金)。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ(<http://www.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成27年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日(金)に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日(金)に締め切る。申請書は、公示日から本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

◆移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

第32回委員会は、平成26年9月19日(金)に厚生労働省9階省議室にて開催した。主な議題は、①脳死した者の身体から摘出された臓器の移植施設について、②臓器移植の適応評価の仕組みについて等であり、終了後、記者会見を行った。

日本医学会だより

JAMS News

2015年10月 No.54
日本医学会

◆臨時評議員会

平成27年6月24日(水)に日本医師会館小講堂にて臨時評議員会が開催された。主な議題は「日本医学会役員選任等の件」で、先に開催された日本医学会連合の定時総会で選任された新役員を日本医学会の役員とすること、また、副会長は従来、基礎、社会、臨床に各1名ずつであったが、近年、臨床部会の数が増加し、今後も継続して増加が予想されるため、臨床部会の副会長を、臨床内科系、臨床外科系の2つに分け、4名の副会長とすることが承認された。

◆日本医学会公開フォーラム

第19回日本医学会公開フォーラムは「胃がん—ここまで進んだ診断と治療—」をテーマに、12月26日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員長は、今野弘之(浜松医科大学副学長・病院長)。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆日本医学会シンポジウム

第148回シンポジウムは「新しいがん免疫療法」をテーマに、12月24日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、間野博行、岩井佳子、上田龍三の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月2日(水)に開催し、平成27年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞21、奨励賞28を審査した。

選考の結果、11月1日(日)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・慢性炎症・癌化に関わる新しいユビキチン修飾系の発見/岩井一宏(京大・細胞機能制御学)
- ・生活習慣病のリスク要因解明と予防対策の評価に関する公衆衛生学的研究/磯 博康(阪大・公衆衛生学)
- ・高血圧の発症の分子メカニズム/藤田敏郎(東大先端科学技術研究センター)
- ・がん外科手術手技に関する臨床研究法の確立とそれを用いた胃がんリンパ節郭清の標準化/笹子三津留(兵庫医大・外科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・分子イメージングによるがんのコンパニオン診断とイメージングに基づいた光線治療法の開発/光永真人(慈恵医大・内科学)
- ・褐色・白色脂肪細胞における転写・エピゲノム制御と肥満症における意義/脇 裕典(東大・脂肪細胞機能制御学)

- ・ ストーマ患者に対する新たな同種複合組織移植研究/荒木 淳 (東大・形成外科・美容外科学)
- ・ 子宮内膜由来の着床障害による不妊症の関連遺伝子の解析/黒田恵司 (順天堂大・産科婦人科学)
- ・ 医師の健康支援に関する産業保健的介入のあり方の検討/和田耕治 (国立国際医療研究センター)
- ・ 心不全特異的なBNP転写誘導メカニズムの解明による新たな経口心不全治療薬開発の試み/塚本 蔵 (阪大・医化学)
- ・ 肺癌化学療法に伴う免疫耐性機構の動的変化を克服する化学免疫療法の基盤開発とその制御/大植祥弘 (川崎医大・呼吸器内科学)
- ・ 消化器癌における常在微生物群ゲノムの解析と分子異常・免疫応答・環境因子との関連/能正勝彦 (札幌医大・消化器・免疫・リウマチ内科学)
- ・ 炎症性腸疾患における腸内細菌叢パターン解析による新たな診断分類, 治療選択手法の確立/高山哲朗 (東海大・内科学)
- ・ 臓器間神経ネットワークによる体重調節機構の解明に基づく新規肥満治療薬の開発/山田哲也 (東北大・糖尿病代謝内科学)
- ・ CTCチップを用いた循環腫瘍細胞捕捉と低侵襲的な新規腫瘍確定診断法の確立/横堀武彦/(群馬大・病態腫瘍薬理学)
- ・ 食道癌における“がん代謝”に関わるepigenomic biomarkerの網羅的解析/馬場祥史 (熊本大・消化器外科学)
- ・ 聴覚機能の成立に関わるアクチン制御機構の解明/坂口博史/(京府医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
- ・ メタボリックシンドロームにおける尿路結石促進機序の解明と分子標的治療への応用/岡田淳志 (名市大・腎・泌尿器科学)
- ・ 次世代型偏光感受型光干渉断層計による術後瘢痕化評価/福田慎一 (筑波大・眼科学)

◆「HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」作成について

HPVワクチン接種後に生じた様々な症状により、適切な医療を求めている患者及びその保護者に対する支援体制充実のため、日本医師会とともに作成したものである。現場で対応にあたる地域の医療機関、都道府県ごとに選定した協力医療機関の医師等を対象にしている。平成27年8月19日(水)に日本医師会と合同記者会見を行った。手引きは日本医学会HPからダウンロードできる。

<http://jams.med.or.jp/news/041.pdf>

また、平成26年12月10日(水)には日本医師会と「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに合同シンポジウムを開催しており、日本医学会HP「Onlineライブラリー」から動画配信しているので併せてご参照いただきたい。
<http://jams.med.or.jp/library/symposium.html>

◆研究倫理教育研修会

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会主催の研究倫理教育研修会を、「医学研究倫理を考える」をテーマに、平成27年5月15日(金)、河上 裕、北村 聖、曾根三郎の各座長の下、日本医師会館大講堂にて開催した。

当日は、「医学研究と倫理」(河上 裕慶應義塾大学医学研究科委員長)、「医学研究成果公表における著者資格と研究不正およびその防止」(北村 聖東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授)、「医学系研究に係る利益相反マネジメントの考え方とその実際」(曾根三郎徳島大学名誉教授/徳島市病院事業管理者)、「『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の概要」(福井次矢聖路加国際大学理事長/聖路加国際病院院長)、「あらためて研究倫理とは何か～医の倫理との異同を考える」(棚島次郎東京財団研究員)の講演がそれぞれ行われ、総合討論の後、終了した。参加は97分科会。

平成 27 年 5 月 13 日

緊急声明

「国家戦略特区による医学部新設」は国民の求める医療を崩壊させます。医育・医学・医療界の総意として医学部新設に反対します。

公益社団法人日本医師会

会長 横倉義武

日本医学会

会長 高久史磨

一般社団法人全国医学部長病院長会議

会長 荒川哲男

国家戦略特区、東京圏国家戦略特別区域会議の成田市分科会において「医学部の新設」が議論されています。十分な情報を国民や医療界に開示する事なく、結論ありきで進められている様に見えます。日本医師会、日本医学会、全国医学部長病院長会議は「国民の求める医療の崩壊」をもたらす事を強く危惧し、医育・医学・医療界を代表し「国家戦略特区による医学部新設」に反対するものです。

本問題は、医学、医療、国民福祉に直結する重要問題です。医療界を含め国民に広く周知し十分な議論尽くすことを強く要望します。

1. これからの医学部新設は医師不足対策にはなりません。

入学しても卒業まで6年必要です。卒後2年の臨床研修、その後も専門医、学位取得などが必要で、一人前の医師になるためには入学後約十数年の時間が必要です。近年の定員増により、世界標準の医師数には今後はわずか7～8年で到達します。これからの医学部新設が医師不足対策にならないのは明らかです。

2. 医師不足対策には地域偏在・診療科間偏在解消が必要です。

単に医師数を増やしても地域偏在・診療科間偏在を増悪させるのみで、医師不足は解消しません。地域偏在・診療科間偏在解消対策の策定こそが必要です。日本医師会、全国医学部長病院長会議は合同で「実効性ある偏在解消対策」の策定に取り組んでおり、近々に国民の前に提言する予定です。

3. 医学部新設は国際機関から世界一と評される日本の医療を崩壊に導きます。

平成 20 年度の医師確保対策以降、既存の医学部で 1,509 名の定員増が行われました。約 15 大学医学部を新設したと同義です。一方、定員増による医学生の学力低下が重要問題として指摘されています。18 才人口が激減している中、医学生のこれ以上の増加は、WHO、OECD、米 academy of science などから世界一の医療と評される日本の医療を崩壊させます。国民が求める質の高い安全な医療に逆行します。

また、今後、毎年約 6,000 名の医師数純増が見込まれ、養成過剰が目前に迫っています。医師確保対策による定員増を見直し、定員削減に舵をきる時期に、医学部を新設するのは道理に合わない政策です。

4. 医師養成には国民の負担による多額な養成費用が必要です。

医学部 6 年間で医師の養成に必要な経費は一人当たり約 1 億円に上ります。これらの財源の多くが国民の税負担であることを踏まえても、医学部新設は現実的ではありません。

5. 地域医療の再生をさまたげるおそれがあります。

医学部新設には、優れた基礎系および臨床系の教員が多数必要です。医学部新設のために全国の大学や地域の基幹病院から有能な医師・教員が引き抜かれれば、地域医療は崩壊の危機にさらされます。

既存の大学の施設、人材を活用すれば地域医療に影響なく養成が可能です。また、時代の要請に応じた定員減を含む定員の適切かつ迅速な変更が可能です。しかし、医学部を新設すれば多額の初期投資の関係で定員調整は不可能です。

6. 国際医療人育成はすでに実施されており特区での実施に意味はありません。

国家戦略特区での医学部の新設は、「グローバルスタンダードに対応した国際医療人育成」を目指すとしてされています。「国際医療人育成」のためのカリキュラムはすでに既存の医学部において実施されています。さらに第三者機関としての日本医学教育評価機構を発足させグローバルな医師養成に力点を置く医学教育改革が進んでいます。特区で医学部を新設し国際医療人を育成する妥当性は全くありません。

また、提案の計画では140名の定員中、特別国際枠は20名のみであり、国際性ある医学教育のモデル事業に名を借りた一般の医学部新設に他なりません。

平成 27 年 8 月 5 日

新しい外科的治療の臨床応用に際しては十分な体制の整備を

日本医学会長 高久 史磨

2013 年に Diovan (バルサルタン), CASE-J (プロプレス), SIGN (タシグナ) と呼ばれる臨床研究に関する事件が相次いで報道され、特に Diovan に関しては日本高血圧学会の役員の方々が深く関係していたため、日本医学会は「バルサルタン不正問題に関する日本医学会の見解」を 2013 年 8 月 29 日に発表、さらにその後「わが国の不正な臨床研究に関する日本医学会の見解」を同年 11 月 8 日に公表している。

2014 年になって千葉県がんセンターにおける腹腔鏡下手術による患者 11 名の死亡、群馬大学における腹腔鏡下肝切除による患者 8 名の死亡、さらに本年になって神戸国際フロンティアメディカルセンターにおける生体肝移植における患者死亡が報道されている。

2013 年は医学研究が問題となったが、最近の問題はいずれも臨床に直接関連し、しかも多くの患者が死亡している点で問題はより深刻である。上記の問題の中で群馬大学及び千葉県がんセンターの事件に関しては、2015 年の 4 月並びに 7 月に調査委員会報告が出されている。その報告書を読む限り、両事件に関して共通の問題点が指摘されているが、群馬大学の問題が特に深刻である。

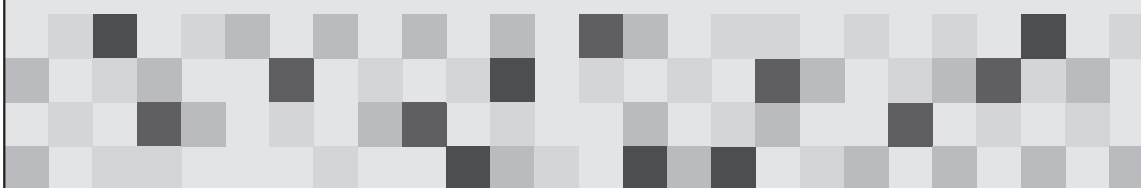
両事件に関して共通して言える事は保険適応外の手術例で、倫理審査委員会の審査を受けていなかった事、インフォームドコンセントに関する病歴上の記載が不十分であった事、死亡例に対する症例の検討が不十分であった事である。特に群馬大学ではデスカンファレンスを実施した資料が残っていなかった事を報告書が指摘している。また術者が、十分な能力を持った助手のサポートを受けていなかった場合のある事が両事件で指摘されており、この点も特に群馬大学の体制の不備が痛感された。日本医学会としては今回の事件に関連して群馬大学医学部が第 1 外科、第 2 外科というナンバー制外科体制を続けてきた点を問題視したい。群馬大学外科の現体制の問題点は、9 年前の生体肝移

植の事故の際に既に指摘されていたのにもかかわらず、その後も依然として保持し続け、その結果として今回の事件を起こしたことは重大な問題であると考え、その意味ではこの古い体制の改革を進めなかった歴代の医学部長、病院長の責任も重いと言わざるを得ないであろう。今回の事件を契機としてナンバー制外科診療体制を一刻も早く改め、臓器別の外科診療体制を整えることを勧告したい。

腹腔鏡下手術は、患者への負担が少ない、極めて臨床的意義の高い手技であると同時に、手術によっては術者に高度の技術が要求される。日本医学会は新しい外科手術の発展を願うものであるが、個人あるいは施設の業績の向上を望む余り、不十分な体制下での新しい手技の導入には極めて慎重であるべき事を改めて強調したい。

なお、神戸国際フロンティアメディアセンターの事件は国際的な問題が絡んでいると考えられるが、同センターから事故報告書が速やかに公表されることを要望したい。

HPVワクチン接種後に生じた症状に 対する診療の手引き



平成27年 8月

公益社団法人 日本医師会 / 日本医学会